

新工場の業務改善と 組織体制の強化

稼働して間もない新工場の業務改善を進めるため、製造業での実務や支援において豊富な実績を持つ研究員が現状分析に基づいて改善策を提案、推進した。また、組織力の強化を見据え、コミュニケーションの活性化を図った。

▼ 取り組み内容

Step 1
現状把握と課題抽出

リアルタイム映像等による工場内の観察や全社員へのインタビューなどを通じて現状を確認し、改善点を特定した。

Step 2
改善策の提案と実行

工場内の動線やレイアウトの見直し、2S・3定活動の推進、在庫管理の徹底などを通じて、業務改善を進めた。

Step 3
組織文化の醸成

組織体制の強化を見据え、全社員参加の月例ミーティングを導入。社員と経営者、部門間のコミュニケーションが活性化した。

Step 4
標準化と人材育成

新入社員教育や作業品質の均一化を目指し、主要な作業を標準化し、動画のマニュアルとして整備した。

受入企業

株式会社 食材倶楽部 代表取締役社長 越野 英司 さん

業務用食品卸を手がける(株)コシノの関連会社として2010年に設立される。唐揚げやとんかつなどチルド・冷凍総菜のOEMが主力で、地元のスーパーマーケットなどに取引先が広がっている。2024年3月、安原工業団地内に新工場を整備。食の安心・安全をレベルアップさせるため、2025年秋のISO22000の認証取得に向け、活動に取り組んでいる。

研究員

高屋 政一 さん

秋田県出身。医療機器の輸入代理店や外資系計測機器メーカーに勤務した後、金融シェアードサービスに携わり、その後、ロボットやモーターを製造するグローバル企業、外資系切削工具メーカーでキャリアを積んだ。シックスシグマのマスターブラックベルト、中小企業診断士の資格を生かし、現在は個人事業主として、ものづくり関連企業を中心に支援する。

株式会社 食材倶楽部

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

新工場の 業務改善と 組織強化

取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・生産効率の向上を目指し、工場内のレイアウトを見直して人とモノの動線を最適化したほか、2S（整理整頓）と3定（定品・定位置・定数）を徹底した。主要な作業を動画でマニュアル化した。
- ・販売管理システムの過去データを分析して人員配置を最適化したほか、在庫管理の精度を高め、今後の計画生産への端緒を就けた。
- ・社長を含め、全社員参加の月例ミーティングを開始し、組織内のコミュニケーションを活性化した。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・新工場設立を機に、従来の家内工業的な体制から近代的な食品工場へ脱皮するため、本プログラムへの参加を決めました。旧態依然とした業務のやり方や組織体制を見直し、製造業務の改善と組織強化を進めることで、事業のさらなる成長につなげたいと思いました。

評価（成果・社内変化など）

- ・高屋さんのおかげで、これまで管理が行き届いていなかった工場の業務改善が進みました。外部のコンサルタントの指導を受けるのは初めてでしたが、半年間の成果には満足しています。
- ・今後の組織強化を見据え、中間管理職を育成する必要性を認識しました。高屋さんのアドバイスで始めた全社員でのミーティングによって社内のコミュニケーションが活性化し、自発的な意見や提案が出てくるようになるなど、組織風土の変化を実感しています。
- ・高屋さんのデータ分析を基に、計画生産にも着手できました。今後の働き方改革につなげていきたいと思っています。また、営業と製造現場の連携も強化することができました。

今後の関わり方

- ・今後はいったん自社のリソースだけで業務改善に取り組んでみて、課題の再発の有無を確認していきたいと考えています。本プログラムによる成果を第1ステップ、ISO22000認証取得を第2ステップとして新工場の発展につなげていきます。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・これまでのコンサルティング業務はいずれも短期間だったため、半年間の支援を通じて、より深く企業の課題解決に貢献したいという思いがありました。また、今回の取り組みを通じて、経験の浅い食品製造分野における知識を深めたいとの思いもありました。

評価（取り組み・生活）

- ・単なるコンサルタント業務とは違い、現場に入り込み、社長や社員と密接に連携しながら課題解決に取り組めたことは、非常に貴重な経験であり、大きなやりがいを感じました。
- ・これまでもさまざまなプログラムに参加してきましたが、「先端研究講義」「地域ワークショップ」「共創型人材シナリオゼミ」「総合演習」の4つを組み合わせた大学での学習プログラムは独自性が高く、非常に有益でした。ぜひ他の人にも推奨したいと感じました。
- ・私は普段、国際協力機構（JICA）の海外協力隊員として、アフリカで製造現場の改善活動に参加しています。本プログラムで得た経験を国内はもちろん、現地での活動にも役立てていきたいと思っています。

今後の展望

- ・本プログラムを通じて北陸の中小企業とのつながりを築けたことを大変うれしく思っています。北陸にはものづくり企業も多く立地しています。今後もこれまで培ってきた知見を生かし、北陸の企業の支援に携わることができればと考えています。